



Cisco Unified Communications Manager 統合 へ Cisco Unified Communications Manager Express を追加する

Cisco Unity Connection は、Cisco Unified CM サーバーと Cisco Unified Communications Manager Express サーバーのポートグループを持つ Cisco Unified Communications Manager 電話システム統合を統合できます。通常、この設定は、WAN リンクがダウンしたときにブランチオフィスでコール処理機能を確保するために使用されます。

ただし、次の考慮事項があります。

- Cisco Unified CM Express のバージョンと Cisco Unity Connection のバージョンは、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unity-connection/products-device-support-tables-list.html>にある Cisco Unity Connection の互換性マトリックスでサポートされている組み合わせである必要があります。
- Cisco Unified CM 電話システムの統合は、通常、Cisco Unified CM Express サーバーを追加する前にすでに作成されています。
- [Cisco Unified Communications Manager 統合へ Cisco Unified Communications Manager Express を追加する \(1 ページ\)](#)

Cisco Unified Communications Manager 統合へ Cisco Unified Communications Manager Express を追加する

Cisco Unity Connection は、Cisco Unified CM サーバーと Cisco Unified Communications Manager Express サーバーのポートグループを持つ Cisco Unified Communications Manager 電話システム統合を統合できます。通常、この設定は、WAN リンクがダウンしたときにブランチオフィスでコール処理機能を確保するために使用されます。

ただし、次の考慮事項があります。

- Cisco Unified CM Express のバージョンと Cisco Unity Connection のバージョンは、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unity-connection/products-device-support-tables-list.html>にある Cisco Unity Connection の互換性マトリックスでサポートされている組み合わせである必要があります。
- Cisco Unified CM 電話システムの統合は、通常、Cisco Unified CM Express サーバーを追加する前にすでに作成されています。

Cisco Unified CM 電話システム統合へ Cisco Unified CM Express サーバーを追加する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[テレフォニー統合 (Telephony Integrations)] を展開し、[ポートグループ (Port Group)] を選択します。
- ステップ 2** [ポートグループの検索 (Search Port Groups)] ページで、Cisco Unified CM サーバーのポートグループの名前を選択します。
- ステップ 3** [ポートグループの基本 (Port Group Basics)] ページの [編集 (Edit)] メニューで、[サーバー (Servers)] を選択します。
- ステップ 4** [サーバーの編集 (Edit Servers)] ページの [Cisco Unified Communications Manager] で、[追加 (Add)] を選択します。
- ステップ 5** 新しい行に、以下の設定を入力します。

表 1: Cisco Unified CM Express サーバーの設定

フィールド	設定
順位 (Order)	Cisco Unified CM サーバーよりも大きい数値を入力します。最も小さい数字はプライマリ Cisco Unified CM サーバーで、それよりも大きい数字はセカンダリサーバーを表します。
IPv4 アドレス/ホスト名 (IPv4 Address or Host Name)	Cisco Unified CM ポートグループに追加する Cisco Unified CM Express サーバーの IPv4 アドレス (またはホスト名) を入力します。
IPv6 アドレス/ホスト名 (IPv6 Address or Host Name)	Cisco Unified CM Express の統合には、このフィールドを使用しないでください。IPv6 は、Cisco Unity Connection と Cisco Unified CM Express の間ではサポートされていません。
IP アドレスまたはホスト名 (IP Address or Host Name)	Cisco Unified CM ポートグループに追加する Cisco Unified CM Express サーバーの IP アドレス (またはホスト名) を入力します。
ポート (Port)	Cisco Unified CM ポートグループに追加する Cisco Unified CM Express サーバーの TCP ポートを入力します。デフォルト設定を使用することを推奨します。

フィールド	設定
TLS ポート (TLS Port)	Cisco Unified CM ポートグループに追加する Cisco Unified CM Express サーバーの TLS ポートを入力します。デフォルト設定を使用することを推奨します。

- ステップ 6** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 7** [編集 (Edit)] メニューで、[詳細設定 (Advanced Settings)] を選択します。
- ステップ 8** [詳細設定の編集 (Edit Advanced Settings)] ページの [応答後の遅延 (Delay After Answer)] フィールドに **1000** と入力し、[保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 9** [編集 (Edit)] メニューで、[ポートグループの基本設定 (Port Group Basics)] を選択します。
- ステップ 10** [ポートグループの基本設定 (Port Group Basics)] ページで、[リセット (Reset)] を選択します。
- ステップ 11** リセットするとすべてのコールトラフィックが終了するというプロンプトが表示されたら、[OK] を選択します。
- ステップ 12** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで、[ポートグループのテスト (Test Port Group)] を選択し、[実行 (Go)] を選択して Cisco Unified CM Express ポートグループの設定を確認します。
- ステップ 13** テストによって進行中のコールが終了することを確認するプロンプトが表示されたら、[OK] を選択します。
- テストが成功しなかった場合、タスク実行結果にはトラブルシューティングのステップが書かれた 1 つ以上のメッセージが表示されます。問題を解決した後に、もう一度接続をテストしてください。
- ステップ 14** [タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウで、[閉じる (Close)] を選択します。
- ステップ 15** Cisco Unity Connection Administration からサインアウトします。

Cisco Unified Survivable Remote Site Telephony (SRST) ルータを使用する

Cisco Unified Survivable Remote Site Telephony (SRST) ルータがネットワークの一部であり、Cisco Unified SRST ルータが Cisco Unified CM からコール処理機能を引き継ぐ場合 (WAN リンクがダウンしている場合など)、ブランチオフィスの電話は、引き続き機能します。ただし、この状況では、統合機能には次の制限があります。

- **通話中グリーティングへの通話転送** : Cisco Unified SRST ルータが PSTN に対して FXO/FXS 接続を使用している状況で、分散拠点から Unity Connection に着信が転送された場合、通話中グリーティングを再生することはできません。
- **内線グリーティングへの通話転送** : Cisco Unified SRST ルータが PSTN に対して FXO/FXS 接続を使用している状況で、分散拠点から Cisco Unity Connection に着信が転送された場合、内線グリーティングを再生することはできません。PSTN は FXO 回線の発番号を提供するため、発信者はユーザとして識別されません。

- **着信転送**：PSTNに到達するにはアクセスコードが必要であるため、Unity Connection から支社への着信転送は失敗します。
- **識別されているユーザーのメッセージ**：Cisco Unified SRST ルータが PSTN に対して FXO/FXS 接続を使用し、支社のユーザーがメッセージを残したり通話を転送したりする場合、そのユーザーは識別されません。発信者は、身元不明発信者と表示されます。
- **メッセージ受信インジケータ**：MWI は支社の電話機では更新されません。そのため、新規メッセージが到着した場合や、すべてのメッセージを聞いた場合、MWI はその状況を正しく反映しません。WAN リンクが再確立された場合は、MWI を再同期化することをお勧めします。
- **ルーティング規則**：Cisco Unified SRST ルータが PSTN に対して FXO/FXS 接続を使用している状況で、分散拠点から Unity Connection に着信が到達した場合（一般の着信または転送呼）、着信サービスは失敗します。

Cisco Unified SRST ルータが PRI/BRI 接続を使用している場合、分散拠点から Unity Connection への通話の発信者 ID が PSTN によって提供される完全な番号（局番および内線）になる場合があります。そのため、Unity Connection ユーザーの内線と一致しない場合があります。その場合は、代行内線番号を使用して Unity Connection に発信者 ID を認識させることができます。

SRST を使用する場合は、Redirected Dialed Number Information Service (RDNIS) をサポートする必要があります。

Cisco Unified SRST ルータの設定については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-survivable-remote-site-telephony/products-installation-and-configuration-guides-list.html> にある、該当する『Cisco Unified SRST システムアドミニストレーターガイド』の「ボイスメールと Cisco Unified SRST を統合する」の章を参照してください。

AARを経由したルーティングされたボイスメールコールにおけるRDNISの送信不能の影響

自動代替ルーティング（AAR）を使用する場合は、RDNIS がサポートされている必要があります。

- AAR では、WAN が加入過多の状態になった場合に、PSTN を介して通話を転送できます。ただし、PSTN を介して再転送される場合は、RDNIS が影響を受けることがあります。Cisco Unity Connection がメッセージングクライアントに対してリモートである場合は、正しくない RDNIS 情報によって、AAR が PSTN を介して再ルーティングするボイスメールコールに影響が及ぶことがあります。RDNIS 情報が誤っている場合、通話はダイヤル先のユーザーのボイスメールボックスに到達せず、代わりに自動受付のプロンプトを受信します。その場合、発信者は、到達先の内線番号を再入力するように要求されることがあります。この動作は、主に、電話通信事業者がネットワークを介した RDNIS を保証できない場合の問題です。通信事業者が RDNIS の正常な送信を保証できない理由は数多くあります。通信事業者に問い合わせて、回線のエンドツーエンドで RDNIS の送信を保証しているかどうかを確認してください。オーバーサブスクリプションの状態になった WAN に対

して AAR を使用する代替の方法は、単に、オーバーサブスクリプションの状況で発信者にリオーダー トーンが聞こえるようにすることです。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。